

令和7年度

福島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○子どもが主体的に学ぶ楽しい授業・わかる授業の実践
○個に応じた教育活動に取り組み、基本的な生活習慣を身につけた子どもを育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

【小中連携または中高連携における共通の取組】

語彙力の育成

【各校の取組状況の把握について】

授業参観や学校力向上コラボレーション事業の研修を通じて各校の取組を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習事項の学習内容については、ある程度の定着がみられる。 ●基礎の漢字・計算が十分ではない個別指導の必要な児童もあり、学習定着の差が大きい。 ●自分の思いを伝えるための語彙が十分でない。	・基本的な生活規律や学習規律を身に付け、学年相当の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。	・「学習の構え10の約束」と家庭学習の手引きを全教職員が共通理解し、全学年で指導する。 ・漢字の小テストを定期的に行ったり、音読・計算カードを家庭と連携して活用したりする。新聞や視写等も適切に活用する。 ・友達の作品や模範例を紹介したり、個に応じた課題を提示したりする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考力・判断力・表現力が高い児童が授業の内容を深めたり高めたりしている。 ●調べたことや考えたことを表現することを苦手と感じる児童がいる。	・課題に対して既習を生かしたり、根拠を明確にしたりして考えをもつことができる。 ・他者と話し合いを通して、考えを比較したり統合したりして、よりよい解や新しい考えをつくり、文章や発話によって表現することができる。 ・必要な情報を読み取ったり、目的や条件に応じて書いたりできる。	・円滑に活動が進むように、書くこと・話すことの型をいつでも見られるようにする。 ・学習形態や思考法を工夫し、考えを比較したり統合したりする機会を設ける。 ・互いの意見を紹介・共有・まとめる場を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた学習課題や日々の宿題に真面目に取り組む児童が多い。 ●学習に対する姿勢が受動的な児童や間違いを恐れて消極的になってしまう児童がいる。	・わかる楽しさや喜びを感じ、進んで粘り強く学習に取り組むことができる。 ・新しい物事に挑戦したり、他者の話を詳しく聞いたりして、進んで関わろうとすることができる。	・ICT機器を適切に活用する。 ・自ら課題を選択したり、思いを表現したり発表したりする場面を設定する。 ・興味・関心に応じた教材づくりや授業づくりを行う。			